

個別研究プロジェクト

自治体等出向者のコメント

自治体はどうあるべきか (東京都西東京市)	64
感謝 ～関わらせていただいたすべての皆様へ～ (広島県呉市)	65
社会変化に対応する知識・経験の蓄積を (日本年金機構)	66
みんなのチカラを総結集! ～フレイル予防で広がる Wellbeing の輪～ (神奈川県平塚市)	67

Individual research project
Comments from employees seconded to local governments

自治体はどうあるべきか

学術専門職員 笹野 隆（東京都西東京市）

2024年4月に東京都西東京市よりIOGに出向し、この一年間で様々な研究活動や産官学民連携に携わる中で、基礎自治体である市区町村は今後どうあるべきなのかということを日々考えさせられました。

IOGで学んだこと

大規模調査の柏スタディをはじめ、eスポーツのフレイル予防に寄与する効果検証等といった研究活動に携わることができ、WINGS-GLAFSの講義を受講する機会を得ることもできました。その中で、エビデンスを積み上げていくことや絶えずイノベーションを追求することの重要性、学との連携の大切さを学びました。社会や人が大きく変わる時、その背景にはエビデンスとイノベーションがあるのではないのでしょうか。自治体が何かをなすためにも、最新の技術・知識・エビデンスが必要不可欠であり、自治体で研究調査を行うのは困難なので学との連携が必要不可欠であると実感しました。

産官学民連携では、多くの産や民の方と交流することができました。何か物事を継続・拡大させていくには、自治体だけの力では限界があり、産業界の力も使って利益を生みだしながら「犠牲なき献身こそ真の奉仕」を体現していく必要があると感じました。また、全国のフレイルチェック活動を通じて、フレイルサポーターを中心とした地域の底力を体感することができましたし、一生懸命頑張る他の自治体職員やフレイルトレーナーと知己になることができ、これらは大きな刺激になりました。地域との関係性や自治体間の競争といったことで、時に地域の内外で困難に見舞われることもあります。仲間がいるということはこれからの大きな励みになります。

学んだ先へ

ただ学ぶだけではなく、出向から戻った際には、学んだことを持ち帰り、実践していかなければなりません。高齢社会に限らず社会課題を解決していくには、イノベーションと産官学民連携を駆使していくしかないのではないかと感じています。住民に最も近い存在である基礎自治体は、これからも多くの社会課題に向き合っていかなければなりません。そうした時に、今からイノベーションと産官学民連携に取り組んでいるかどうかが大きく問われるような気がしています。来年度は、そうした土壌ができるよう地道に耕し種を蒔きながら今後の実践に繋がるそんな一年にしていきたいと強く思っています。



国立市フレイルチェック会



西東京市eスポーツのフレイル予防に寄与する効果検証



西東京市フレイル予防料理教室



ロッテさんとの西東京市フレイル予防イベント

感謝 ～関わらせていただいたすべての皆様へ～

学術専門職員 吉村 佑生（広島県呉市）

私は 2023 年 4 月に広島県呉市より IOG に出向し、2024 年度は IOG での活動 2 年目の年となりました。昨年度同様、1 年間を通じて様々なプロジェクトに関わらせていただきました。

中でもフレイル予防プロジェクトについては、定例ミーティングの司会を務めさせていただくなど、昨年度以上に多くの方々と御縁をいただく 1 年間でした。各地のイベント等のお邪魔した際には「いつもミーティング参加してます!」といったお声をいただきとても嬉しく感じていました。

また、IOG での活動 2 年目ということもあり関わらせていただく皆様の変化も多く感じさせていただきました。日々の活動が壁にぶつかり、それを打開しようと住民・行政が一体となって手探りで始めた動きが軌道に乗る様、さらには好循環を生みながら自走していく様を間近で見させていただいたことは自治体職員として大変貴重な経験となっています。

私の出向元である呉市は高齢化率 36.6%となっており、日本全体の 29.3%に対して大きく上回っています。市域には都市部だけでなく山間部、島しょ部を有しており、少子高齢化・人口減少が進んでいる日本の縮図として全国の中でも最先端を走っていると言っても過言ではありません。そのような状況の中で住民の皆さんが「生きがい」を持って楽しく暮らせるようにするためには IOG で行われている様々なプロジェクトが重要なヒントになるものと確信しています。

私の出向期間は 2024 年度で終了となりますが、引き続き IOG の取り組む多くのプロジェクトを参考にさせていただくとともに 2 年間で経験したことを糧にして、業務に取り組んで参りたいと思います。

貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。



全国フレイルトレーナーの集い



柏スタディ振り返り会



豊島区フレイルサポーターの皆様と



千葉県フレイルサポーターの集い

社会変化に対応する知識・経験の蓄積を

学術専門職員 蒔野 充照（日本年金機構）

私は、公的年金の一連の運營業務を担っている日本年金機構より、2023年10月よりIOGに出向しております。日本年金機構からの出向は、2016年に始まり私で4代目となりました。着任して1年半、「フレイル予防」「生きがい・就労」のプロジェクトに携わらせています。特に、厚生労働省の高齢者の雇用機会確保の施策のひとつである「生涯現役地域づくり環境整備事業」を受託して行われている柏市生涯現役促進協議会の活動に携わらせていただいています。

IOGでの活動を通して、日本社会が突入している超高齢社会への課題意識を知ることができました。また、その社会変化に対応するための高齢者地域就労への取り組みや、フレイル予防事業等に関わらせていただきました。日本年金機構のミッションは、確実な適用・徴収、正確な給付等の基幹業務に安定的かつ着実に取り組み、国民生活の安心を支え続けることです。そのために社会の変化に着実に対応することは必須であることを、IOGでの活動を通して強く再認識しました。

またIOGへの出向にあたり、最も感じることは、視野を広げる機会となっていることです。日本年金機構では、厚生年金保険徴収業務や調達業務に従事しておりましたが、これまでとは違うフィールドに身を置き、研究者の先生、自治体職員、民間企業職員、地域住民の方など、様々な方と関わることで、新たな学びを得る機会となっていると実感しております。

引き続きIOGスタッフとして活動を通して、より多くの知識や経験を蓄積していきたいと考えております。



柏市生涯現役促進協議会主催「セカンドライフセミナー」の様子

みんなのチカラを総結集！ ～フレイル予防で広がる Wellbeing の輪～

客員研究員 佐藤 麻美（神奈川県平塚市）

平塚市は 2022 年に東京大学高齢社会総合研究機構と「フレイル対策の活性化に関する連携協力協定」を神奈川県内の自治体として初めて締結し、フレイル予防、中でも「オーラルフレイル予防を軸とした産官学民協働のフレイル予防」に力を入れて推進しています。

私は客員研究員として 2024 年 4 月から出向し、以下のテーマを中心に活動しています。

IOG での主な活動や研究内容

- ① オーラルフレイル予防を軸としたフレイル予防のまちづくりの効果検証
- ② 保健事業と介護予防の一体的実施の視点から住民主体のフレイル予防活動効果の研究
- ③ フレイル予防の取組について全国への紹介
- ④ フレイル予防の意識・行動変容に与える要因の考察（産業界、自治体の可能性等の考察）

1 年目を終えて

①では、本市で実施した「オーラルフレイル（以下 "OF"）地域丸ごと集中啓発」の効果として OF の認知度が非介入地域も含め市内全域で上昇し、介入地域では OF 発症者の有意な減少が確認できました（第 66 回日本老年医学会学術集会で発表）。

この成果をフレイルサポーターや産業界、市担当者等と共有することで、フレイル予防の効果を実感し、やりがいや更なるフレイル予防活動への原動力になっていると感じます。

②では、国保データベースシステムを活用して短期的な将来の年間介護給付費をフレイルチェック参加者と非参加者で比較したところ（75 歳以上の後期高齢者が対象）、フレイルチェックに参加した経験がある者の平均年間介護給付費が有意に低いことを確認することができました（2025 年第 67 回日本老年医学会学術集会で発表予定）。この成果は行政の介護保険制度運営にとっても大きなエビデンスであり、今後は多くの自治体でも同じように効果検証をできるような方法を検討していきたいと思います。

③については、この一年間で多くの自治体と出会い、人口減少が進むまちでは高齢者の一人一人が主役になって前向きにフレイル予防の取り組む姿を、都市部においてはフレイルサポーターの得意な分野や、まちの特徴を活かした多彩なフレイル予防活動に触れることができました。これらのフレイル予防を軸とした人の繋がりは、実践する本人だけでなくその周囲やまち全体の Wellbeing に大きな影響を与え健康長寿の実現につながると感じました。2 年目はこれらの取組を全国で共有できるよう、また自治体職員同士の情報共有についても力を尽くしたいと思います。

④については、産業界によるフレイル予防の社会実装の様々な取組に触れ、無関心層を含め広くフレイル予防意識・行動変容を促すためには行政と産業界と住民と学術機関が力を合わせて、各々の得意分野を引き出し実践していく重要性を学びました。今後も実際の取組を中心に引き続き深めてまいりたいと思います。



フレイルサポーター・サンスター(株)・東大 IOG 合同で学会発表